

## 2 操山の御林（おはやし）石碑（富山学区）

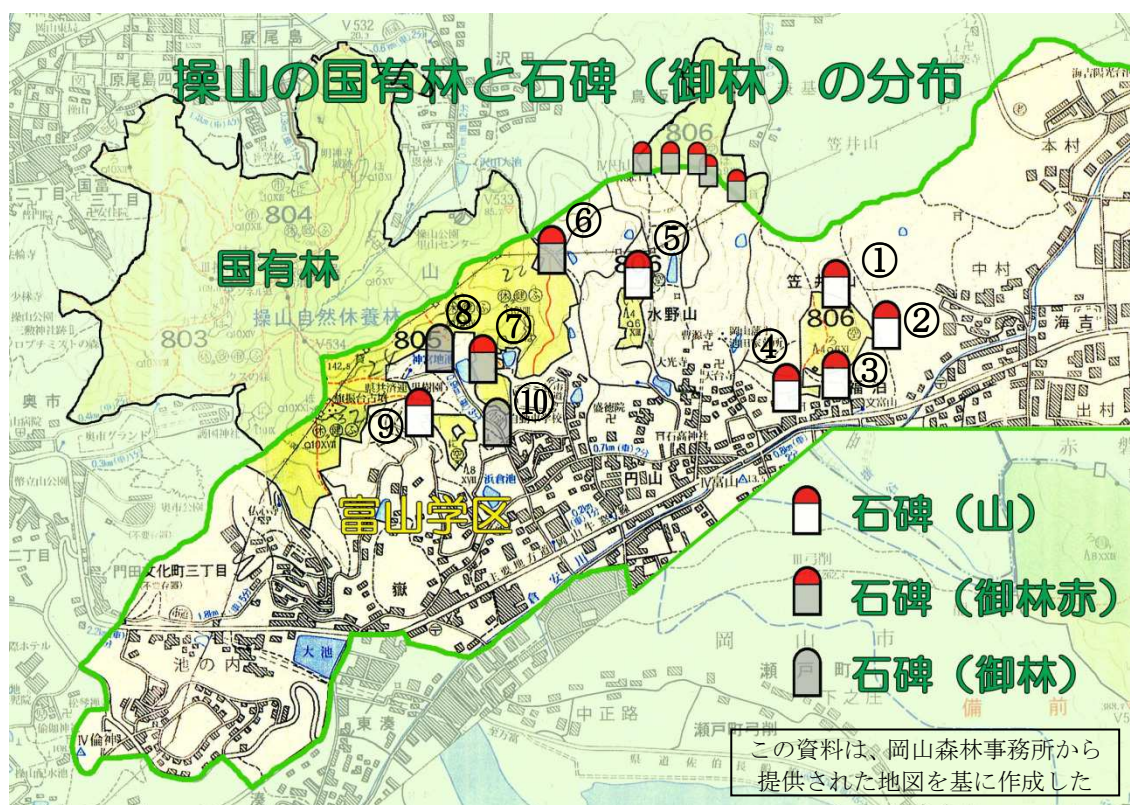
### （１）はじめに


「御林」は、本来江戸幕府の御林奉行又は勘定奉行の管理下にあった幕府直轄の山林をさすが、諸藩の中にも同じ名称を使用する山林があった。岡山藩でも、藩林を「御林」と唱った。（備陽記 20 巻の「備前国御林之事」に、「一、門田村国富村瓶井門前澤田村丸山湊村取回シ御林四十町面アリ前瓶御林ト唱」）

「御林」は、明治 2 年藩籍奉還により国有林となり、現在も藩林の境界を示す“御林”の 2 字を刻んだ自然石が石碑として要所に残っている。（写真参照）




現在の操山丘陵の国有林と石碑御林の分布




現在、富山学区内の操山丘陵国有林の境界を示す石碑が 2 種類見られる。頭部が赤く着色されたもので、一つは「山」の文字が刻み込まれた石碑（「操山の国有林と石碑（御林）の分布」凡例  石碑（山）①②③④⑤⑨）、もう一つが「御



林」の文字が刻み込まれた石碑（「操山の国有林と石碑（御林）の分布」凡例  石碑（御林赤）⑥⑦）である。石碑「御林赤」は、江戸時代岡山藩が埋設したものであるが、石碑「山」は昭和の初め頃に埋設又は其の付近の自然石を活用したものと推測されている。（写真参照）



さらに、頭部が赤く着色されていない本来の姿を残した「御林」凡例  石碑（御林）がある。これは園芸連の敷地にあり、売却等によって現在、国有林ではなくその境界をあらわさない石碑である。（右写真参照）



昭和53年に、岡山県 園芸連に売却。（情報提供：岡山森林事務所）

## （２）現在の石碑（山・御林）の姿

（石碑写真の番号は「操山の国有林と石碑（御林）の分布」の場所を示す）



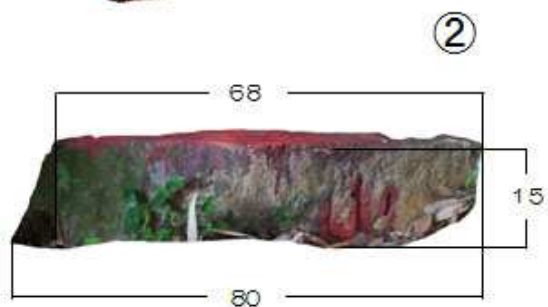
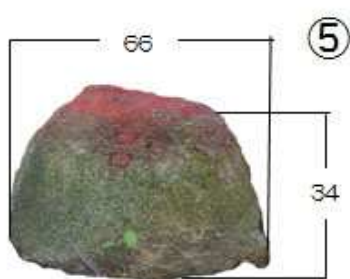




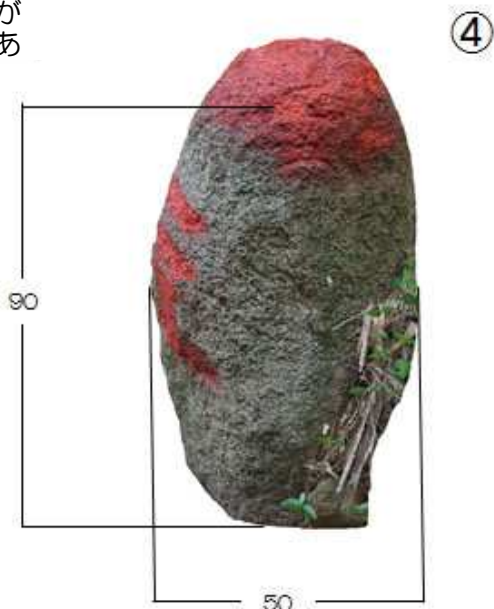
石碑（山・御林）の材質 ： 自然石（花崗岩）

石碑（山・御林）の形状 ：

### 国有林 境界石碑 寸法図（１）（単位：約 cm）

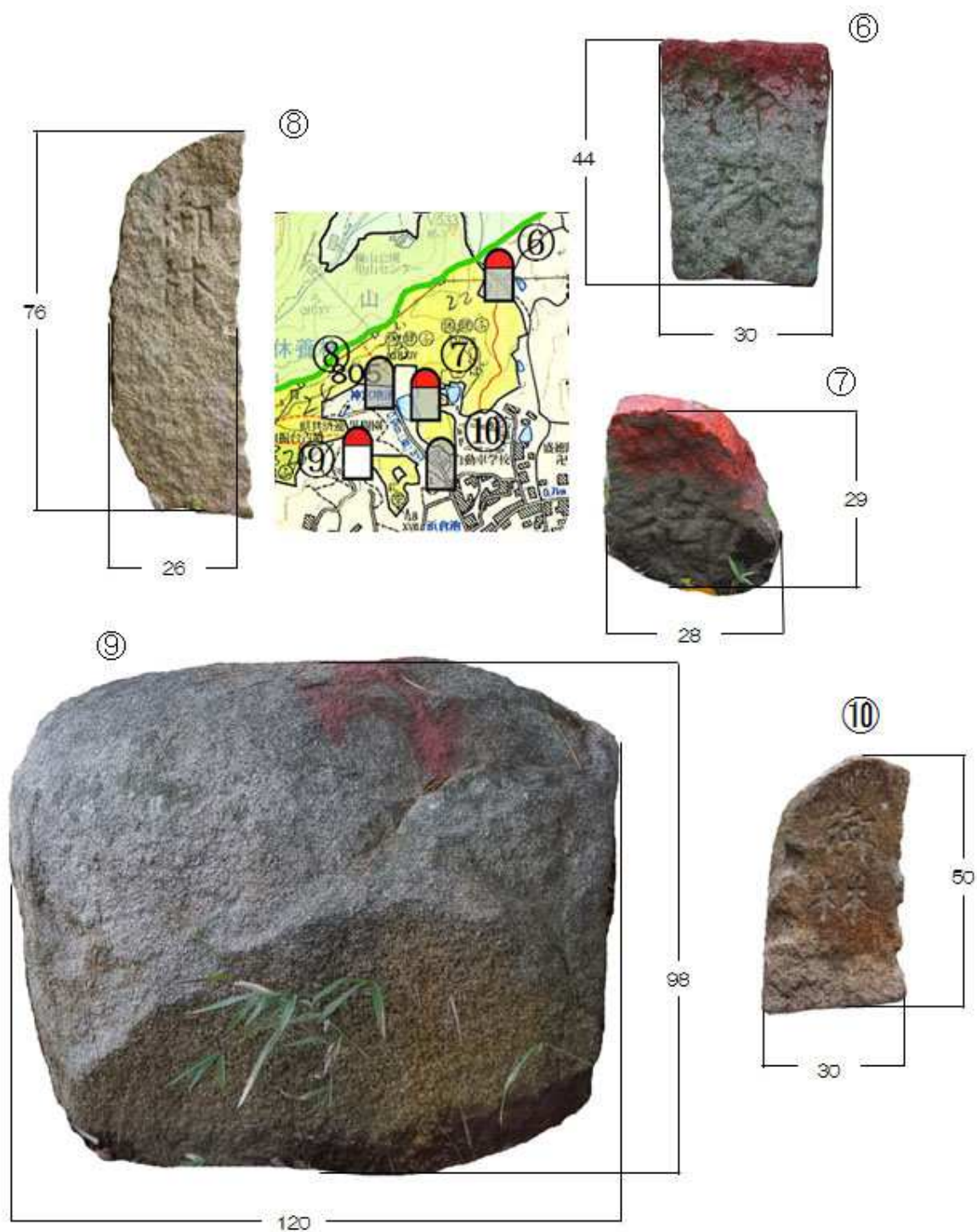


これらの石碑には山の印があり、昭和の初めになって設置したと思われる。





国有林 境界石碑 寸法図 (2) (単位：約 cm)



※ 富山学区に隣接する鳥坂山国有林境界石碑御林



3

5



2

1



4





### （３）笠井山 国有林 境界の印（コンクリート柱）

現在国有林 境界の印は、石碑以外のコンクリート柱（下記写真参照）が多く大部分を占めている。この多数の境界を示す石碑・コンクリート柱は、少なくとも毎年一度以上は、点検して国有林の境界が良く分かる様に全て赤色のペンキで着色して他の山林と区別できる様に整備している。（資料提供：岡山森林事務所）



以上 操山（富山学区）の御林 終わり